

# 市庁舎「新築・統合」の白紙撤回申し入れ

## 市長あての3,095筆の署名を添える

日本共産党鳥取市委員会は、3月22日鳥取市に市庁舎「新築・統合」の白紙撤回を申し入れました。

角谷敏男、伊藤いく子、田中文子の各市議も参加し、深澤副市長が対応しました。

角谷議員は、市庁舎「新築・統合」は市民の合意が得られていないと指摘。「県庁は50年もつが、市庁舎はなぜ20年しかもたないのか」、「市財政は厳しく、借金すべきではない」、「まちづくりの拠点となってきた市庁舎は移転すべきではない」などの市民の声を紹介し、2,698人分の市庁舎「新

築・統合」の白紙撤回を求める署名を渡しました。

なお、4月12日にはその後に寄せられた署名397筆を届けました。



### 市庁舎新築はストップできます！

2月議会で採択された2011年度当初予算には、市庁舎の設計費や建設費は含まれていません。

それに、市庁舎を移転するためには議員の3分の2以上の同意が必要です。

市議会では、3分の1以上の議員が反対を表明しています。

市庁舎新築・移転をやめさせるため市民のみなさんと力をあわせて、ひきつづき全力でがんばります。

## 2011年度当初予算修正案に賛成

2月議会最終日、会派「結」から2011年度一般会計当初予算の修正案が出されました。この修正案は、新庁舎関連予算とJR鳥取駅前の太平線大型シェルター事業費を削除したものです。

日本共産党市議団は修正案に賛成しま

した。

賛成討論に立った角谷議員は、大型シェルターを含む太平線プロジェクトは巨額な大型事業であり、市民合意が不十分であることや市庁舎建設については、調査・検討が不十分な点や必要な資料が議会の特別委

員会に示されていなかった点、市民アンケートは新築を誘導したものである点などを指摘しましたが、賛成少数で修正案は否決されました。

## 市民の苦しさをわからない議会

### 国保料引き上げ中止を求める請願を否決!!

2月議会では市民団体から出された「国保料の2年連続引き上げは中止し、担税力に見合った保険料にすることを求める請願」が審議されました。

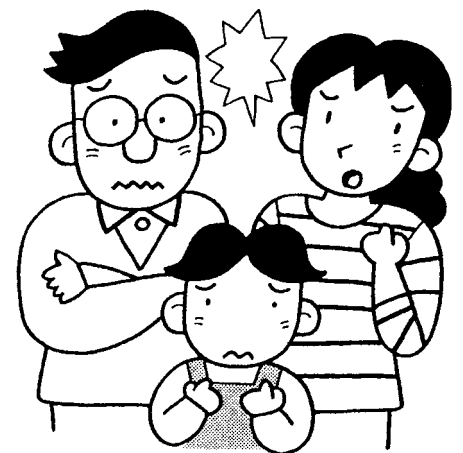
22年度につづいて、23年度は9.88%の引き上げです。モデル世帯（所得158万、固定資産税53,000円、夫婦2人）では29万4,700円にもなり、なんと22年度より26,500円も増えることとなります。

日本共産党市議団は、請願の紹介議員となり、福祉保健委員会と本会議の場で請願

を採択するよう主張しました。

しかし、高すぎる国保料を払える保険料にしてほしいという市民からの願いがこめられた請願は賛成少数のため不採択となりました。

また、水道料金の値上げと国民健康保険料の引き上げが23年度予算として提案されていましたが、いずれも反対少数で可決されました。



日本共産党

市議団だより 11年4・5月号

伊藤いく子議員 ☎21-5759 角谷敏男議員 ☎26-3012 田中文子議員 ☎84-3023  
☎680-0842 鳥取市尚徳町116 ☎0857-20-3335 (直通)  
市議会 ☎0857-22-7711 (議会)

ホームページ:

日本共産党鳥取市議団

<http://www.jcp-torishigidan.net/>

ブログ・角谷敏男議員 (角さんの飛脚便)

<http://www.kakutani-toshio.net/>

伊藤いく子議員 (鳥取で子育てまっしぐら)

<http://www.itou-ikuko.net/>

みなさんのご感想・ご要望をお寄せください。このチラシは、政務調査費で発行しています。

(ウラ面もお読みください。)

## 角谷敏男議員



角谷敏男議員は、市庁舎の耐用年数と寿命について市長の認識をたどりました。

市長は、「耐用年数65年は国内で基準として使われているもの。寿命は個々の具体的なケースによって違ってくる」と答えました。

さらに角谷議員は、補修をすれば市庁舎がどの程度（何年）もつのか調査・検討したのかと追及。これに対し、担当部長は

## 市庁舎の寿命を調査・検討せず

「そういう資料は提示していない。（議会の）特別委員会にも提出していない」と答弁しました。

角谷議員は、「コンクリート強度など、建物がどの程度もつのかを調査していない。市長が言うように（建物の寿命は）個々に違うのに、（耐用年数）65年が二重投資の議論につながっている。調査をしていないのに（耐用年数）65年の根拠に市民は納得しない」と批判しました。

## 市長、耐震改修を選択肢に入れないことを認める

つづけて角谷議員は、「市民アンケート

に耐震改修の選択があったのか」と質問。

市長は、「自由記述の欄を設けていた。直接選択肢として設問で問いかけることはしていない」と、耐震改修が選択肢になかったことを認めました。

角谷議員は、「第1回耐震対策検討委員会でも、当局がアンケートには耐震改修を含めることを説明していた。これは、新築に賛成する人でも絶対に納得のいかないやり方だ」と強く指摘をしました。

なお、角谷議員は、住宅リフォーム制度の創設と、水道料金引き上げの中止を求める質問もおこないました。

## 市庁舎新築より総合支所の充実を！

田中文字子議員は、合併地域から見た市庁舎問題について一般質問をおこないました。

過疎・高齢化がますます進むなか、総合支所は地域の活力を高める核としてあるべきだと、市長の認識をたどりました。

総合支所が地域振興の核となることの重要性を認めた市長に対し、田中議員はさらに「核となる総合支所には権限と財源、人

を充実させることが必要」と追及しました。

市庁舎が新築・統合されれば、総合支所の職員はますます減らされ、機能の縮小とサービス低下への心配の声があがっています。

市長は「本庁をできる限り合理的に一本化し機能を強化する。支所も地元のニーズに応えられるよう考えていく」と答えました。

なお、田中議員は、TPP（環太平洋連

## 田中文字子議員



携協定) について、市民集会開催を求める質問もおこないました。

## 伊藤いく子議員



行政は「市民生活を守ること」と「庁舎の地震対策」の両方をするために予算をどう使うのかが問われています。

## 市庁舎新築より市民生活を守れ！

「市長には市民生活を守る視点が欠けている」と指摘をする伊藤いく子議員に対し、市長は「市民生活を大切にすることが政治信念だ」と答えました。

伊藤議員は市民の声を紹介し、「庁舎の新築はやめて耐震改修にする。市民の暮らしを守る予算にして、国保料の引き上げ、水道料金の値上げをやめる。そういう政治判断をするべきだ」と求めました。

しかし、市長は「庁舎の問題と国保料や水道料金の問題と一緒に議論することは、財源の面からもできない話だ」と答え、あくまでも庁舎の財源は別だということを強調しました。

なお、伊藤議員は、小中学校の耐震化工事を前倒しするよう求める質問もおこないました。

